

7～8月供給の地元農産物の「放射能測定結果」をお知らせします！

～検出下限値1ベクレル/kg以下にて測定の上、全て「不検出」でした～

7～8月供給の地元農産物の放射性物質測定結果をお知らせします。

単位：ベクレル/kg

商品 (対象試料)	生産者名	産地 (場所)	測定結果			
			ヨウ素 131	セシウム 134	セシウム 137	合算値
トマト	岡部洋一	須賀川市 (施設栽培)	検出せず (<0.71)	検出せず (<0.76)	検出せず (<0.66)	—
ピーマン	安藤節子	郡山市 (露地栽培)	検出せず (<0.80)	検出せず (<0.82)	検出せず (<0.78)	—
アスパラガス	安藤節子	郡山市 (露地栽培)	検出せず (<0.77)	検出せず (<0.75)	検出せず (<0.84)	—
きゅうり	森農園	須賀川市 (露地栽培)	検出せず (<0.69)	検出せず (<0.72)	検出せず (<0.67)	—
トウモロコシ	岩瀬牧場	須賀川市 (露地栽培)	検出せず (<0.68)	検出せず (<0.68)	検出せず (<0.72)	—

<供給にあたっての考え方>

私たちあいコープふくしまでは、地元生産者と話し合い、「基準値」などは設けず)現在は“1ベクレル/kg以下”での供給を「両者の目標」としています(※あいコープみやぎでは“25ベクレル/kg”を「自主基準値」として、それを下回ることを確認してお届けしています)。

いずれにしても、「あいコープ組合員には可能な限り低い値のものを」と両者が努力してきました。

同時に、地元の農産物は生産者の努力によって(その排除が最も困難とされる果樹栽培でも)「ネオニコチノイド系農薬」は一切不使用のものをお届けしています。

この農薬は、農作物の根から内部に浸透し、持続性があるため散布回数は少なく済みますが、作物の隅々まで行き渡り、洗っても落ちることはなく、簡単に私たちの体に侵入してしまいます。その正体は神経を伝達するスイッチをオンの状態にしてしまうニセ神経伝達物質で、異常興奮、瞳孔機能障害、低体温、筋肉の脱力、疲労、引きつけなどの原因になると指摘されています。